

インテリジェンス機能の強化に関する有識者会議 第2回説明資料 (国家情報戦略について)

令和8年10月26日
内閣官房国家情報局

第1回会議で示された主な御意見

機能強化の総論事項（必要性、国家情報戦略等）

- ✓ 「国民の安全や国益等の確保の観点、必要な情報を知ることが益々困難なこと等から、機能の強化が必要」
- ✓ 「機能強化しないことによるリスクにつき理解獲得が必要」
- ✓ 「省庁横断的視点で収集・分析の重点を検討すべき」
- ✓ 「優先順位付けなくして、リソースの確保・配分は不可能」
- ✓ 「目指すべきインテリジェンスのレベルの検討が重要」
- ✓ 「ニード・トゥ・ノウを原則としつつ、情報共有も重要」
- ✓ 「同盟国・同志国との間の協力が重要」
- ✓ 「情報活動の指針(国家情報戦略)の策定が不可欠」

情報部門と政策部門の関係性

- ✓ 「情報部門と政策部門が連携するための設計が必要」
- ✓ 「情報部門から政策中枢への提案も重要」
- ✓ 「インテリジェンスを用いた政策形成能力向上も必要」

カウンターインテリジェンス（外国干渉防止等）

- ✓ 「デジタル空間の影響工作への対処能力強化が重要」
- ✓ 「先端分野の技術や情報の流出を防ぐことが重要」
- ✓ 「外国の制度も参考に、外国干渉防止の制度を整備すべき」

情報収集・分析能力の強化

- ✓ 「断片的で時に矛盾する情報を統合する分析力が重要」
- ✓ 「大量のデータを収集・分析する能力の強化が必要」
- ✓ 「中長期的な予測とそれを可能にする分析も重要」

体制、人材

- ✓ 「全体を俯瞰できる、意思決定者に迎合しない、言語・地域情勢等に精通している、研究者的である等の人材が必要」
- ✓ 「長期的キャリアパス、安心できる職場環境、処遇等の確保」

情報活動の留意事項

- ✓ 「自由と安全の健全なバランスの確保、ガバナンスの整備」
- ✓ 「官民連携、機密情報・個人情報の保護等も課題」
- ✓ 「国民の理解獲得、国内外への情報発信が必要」

各御意見を踏まえ、全体に通じる基盤的議論として「**国家情報戦略**」、各論として、特に我が国への脅威の高まりが指摘された「**外国による不当な干渉**」の防止策を、まずは御議論いただくこととなった。

国家情報戦略に関する国会答弁

【令和8年5月8日 参議院本会議 高市内閣総理大臣】

- （基本的な方針の）内容については、本法案を成立いただいた後、国家情報会議で議論してまいります。が、例えば、政府全体の情報活動の重点、関係省庁間の連携要領といった情報活動の具体的な指針のほか、秘密保全、人材育成など幅広い事項が対象となり得るものと考えます。なお、作成、公表を検討している中長期的な情報活動の推進方策を示した文書の取りまとめに当たりましては、情報活動の意義や重要性について理解を深めていただけるものとなっているかという点と併せて、手のうちをさらすことなどにより、今後の情報活動への影響が生じないかといった点におけるバランスにも十分配慮してまいります。

【令和8年5月26日 参議院内閣委員会 高市内閣総理大臣】

- 政府の中長期的な情報活動の推進方策を取りまとめた文書をしかるべき時期までに作成、公表したいと考えております。その具体的な中身については（略）例えば、衆参両院の審議でもその重要性を御指摘いただきました現下の国際環境や取り巻く脅威、情報と政策の分離によるインテリジェンスの客観性確保、また人材確保や人材育成の方針、先端技術の導入、活用といった点のほか、個人情報やプライバシーを無用に侵害したり、政治的中立性を損なうような情報の収集、提供を行わないための具体的方策についても文書の取りまとめの際に議論したいと思っております。

「国家情報戦略」策定に向けて考えられる論点

総論事項

情報活動の必要性・目標等

- ✓ 情報活動の必要性
- ✓ 情報活動によって、何を守り、何をなすのか
- ✓ 限られた資源をいかに重点配分するか

情報部門と政策部門の関係性

- ✓ 情報の分析の客観性を確保しつつ、政策側の需要に応えるため、どのように関係性を構築するか

情報活動の留意事項

- ✓ 機能強化に伴い、自由と安全のバランスの確保、ガバナンスの整備、情報発信のために、何をなすべきか

情報収集・分析能力の強化

対外情報機能の充実

- ✓ 政策判断に必要な対外情報のうち、どのような収集・分析機能を優先的に強化すべきか

インテリジェンス機関の連携

- ✓ 国家情報局の総合調整機能を活用し、各省庁の強みを政府全体の収集・分析につなげるには何が必要か

国際的な連携・協力

- ✓ 自律的な情報能力を確保しつつ、同盟国・同志国とどのように連携していくか

カウンターインテリジェンスの強化

外国による不当な干渉の防止策

- ✓ 影響工作・情報流出・偽情報等をどのように把握し、どのように予防・対処につなげるか

情報保全の在り方

- ✓ 必要な情報共有と秘密保護をどのように両立し、人的・技術的な漏えいに対してどのように対応するか

基盤・体制の整備

人材の確保・育成

- ✓ いかなる専門性を持った人材をどのように確保・育成していくか

先端技術の導入・活用

- ✓ AI等の先端技術を情報活動においてどのように導入・活用していくか

民間との連携強化

- ✓ 機能強化に際し、官民がどのように連携していくか

(参考) 外国政府における戦略関連文書の実例 1 (米国)

米国：『国家情報戦略 (National Intelligence Strategy) 』 (2023年 8 月策定)

概要

- 米国インテリジェンス・コミュニティの今後の方針を示したもの。合衆国法典で 4 年おきに策定すると定められている。
- 前文では、米国が、中国やロシアとの戦略的競争や、非国家主体や気候変動等の地球規模の課題がもたらす、複雑で多様な国際環境に直面している旨を記載。
- 国家安全保障の優先事項を支援するために、インテリジェンス・コミュニティが果たすべき役割や職業倫理を設定。



職業倫理の原則

使命、真実、合法性、誠実性、責任、卓越性、多様性

6つの目標

1 戦略的競争への対応

中国及びロシアを念頭にした戦略的競争に対応するため、専門知識を深め、分析能力の強化等を通じて、政策決定者のニーズに応えていく。

2 人材の確保・育成

結束したコミュニティとして活動する、有能かつ多様な人材を確保・育成する。

3 相互運用性のある革新的なソリューションの提供

組織横断的なデータ・技術基盤の整備、技術と情報収集・分析の統合強化を図る。

4 パートナーシップの拡大・強化

ファイブアイズ等の従来のパートナーとの協力に加え、新たな脅威に対応するため、企業や市民社会等との多様な連携を追求する。

5 国境を越える課題に対応する能力及び専門性の拡大

気候変動、麻薬取引、金融危機等への対処能力を強化する。

6 強靱性の強化

国家の強靱性を支援するため、重要インフラの保護、経済安全保障、スパイ活動等への対応能力を強化する。

（参考）外国政府における戦略関連文書の実例2（フランス）

フランス：『国家情報戦略（STRATÉGIE NATIONALE DU RENSEIGNEMENT）』（2025年1月策定）

概要

- 情報機関の活動に向けたロードマップとして策定。定期的に更新することとされているが、周期について具体的な定めはなく、これまではおおむね5年おきに策定。
- フランスでは過去30年間にわたり、民主的要請を満たしつつ、行政機関や議会等による監視を可能にするための改革が行われてきた（公共情報政策の形成）。
- 2017年には国家情報・テロ対策調整官（CNRLT）を設置。CNRLTは国家情報計画等の策定・更新、情報コミュニティ間協力に係る調整を担当。
- 前戦略（2019年策定）では、テロ、危機管理、経済の保護、サイバー及び諜報等、横断的な脅威に対応する方針を示したが、本戦略では、「ロシアによるウクライナ侵略等、フランスを取り巻く安全保障環境の悪化を受けて、政府の意思決定の自律性を守り、脅威を排除し、国家主権や欧州の結束のために行動する上で、インテリジェンスの果たす役割がこれまで以上に大きくなっている」と言及。



6つの活動指針

1 国際情勢の理解と戦略的課題への備え

技術革新やグローバル化に対応し、国家安全保障に寄与するための情報活動を行う。

2 意思決定及び行動のための情報活動

国家の安定と国民の安全を守るため、情報収集から行動まで一体的なアプローチをとる。

3 仏、欧州、世界の安全保障に向けた協力

国内外の脅威に対抗するため、仏国内、同盟国、外国パートナーとの情報共有と協力を強化する。

4 法の支配の下での情報活動

情報活動の有効性と、法的統制やプライバシー保護を両立させる。

5 情報活動のための技術活用

AI、量子技術等の先端技術を必要な情報活動に活用するとともに、専門人材及びツール開発を推進する。

6 人材の確保・育成

高い倫理観と使命感を持つ専門集団として、多様な職種や専門性を活かして国益に貢献する。

(参考) 外国政府における戦略関連文書の実例 3 (カナダ)

カナダ：『カナダ情報優先事項 (Canada's Intelligence Priorities) 』 (2024年9月策定)

概要

- カナダの国家安全保障及び情報機関の全体像をまとめ、インテリジェンスの優先事項を示したもの。2年おきに更新されており、従来は非公表だったが2024年版で初めて公表。
- 民主的制度への外国干渉、経済安全保障、サイバーセキュリティに対する脅威への対処、世界の安定を脅かすリスク及び暴力の過激化への対応、カナダ軍の作戦準備及び安全性の強化に触れ、インテリジェンスが社会の安全を確保する上で中心的な役割を担っていると紹介。
- インテリジェンス活動においては法令を遵守し、市民の権利やプライバシーを尊重することが重要であり、インテリジェンス・コミュニティが多様性と包括性の強化に取り組むとともに、カナダ国民の信頼を得るために透明性を高めている旨を記載。
- 優先事項は、以下のとおり「対抗」「進展」「防衛」「保護」の4つの分野にわたって設定。



1 対抗

カナダ国内外やオンライン空間において、カナダ国民に対する情報活動に対抗し、同活動を抑止する。

【優先事項】外国からの干渉及び影響工作、スパイ活動及び情報窃取、破壊工作及びサイバー脅威

2 進展

カナダの繁栄や経済安全保障、持続可能性等の進展を通じて、国益を追求、促進、保護する。

【優先事項】技術環境及びインフラの安全性、グローバルガバナンス及び国際連携、グローバル・ヘルス、食料、水及び生物多様性の保護、気候変動及びグローバルな持続可能性

3 防衛

カナダ国内外やオンライン空間において、カナダ及び同盟国の安全保障上及び国防上の取組を強化する。

【優先事項】北極の主権及び安全保障、国家防衛及びカナダ軍の活動、グローバルな安全保障及び安定性

4 保護

カナダ国内外やオンライン空間において、カナダ国民に対する深刻な脅威を抑止、防止、阻害し、カナダ国民及びその利益を保護する。

【優先事項】暴力的過激主義、国際組織犯罪・サイバー犯罪・国境管理、不正・脅威金融及び金融セクターの健全性、移民の安全及び国境管理の適正性

(参考) 9.11テロを踏まえ米国で初めて策定された戦略文書

『アメリカ合衆国の国家情報戦略－統合と改革を通じた変革』 (2005年10月策定)

The National Intelligence Strategy of the United States of America Transformation through Integration and Innovation

米国初の国家情報戦略

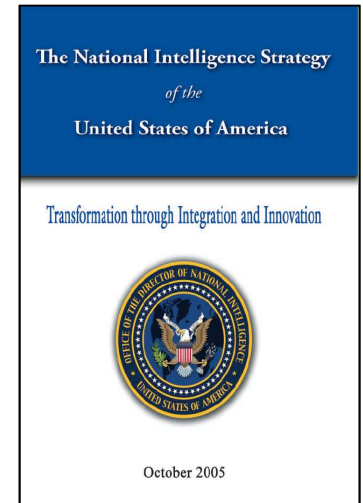
- インテリジェンス・コミュニティの「**ビジョン**」「**使命**」「**戦略**」について記載。
- 「戦略」ではコミュニティの活動を指導するための目標を設定。

任務目標 Mission objectives

「国家安全保障戦略」から導き出される目標を支援するための目標。

組織目標 Enterprise objectives

任務遂行に必要なコミュニティの能力の変革を規定。



具体的内容

(1) ビジョン

米国民及び米国の利益を守り、米国の価値を前進させるという共通の目的を有する革新的なインテリジェンスのプロフェッショナルが結集する事業体となり、民主的制度、多様性、知的・技術的に優れた能力を通じて強さを発揮する。

(2) 使命

- ①大統領はじめ政策決定者等に対して、正確で時宜にかなった客観的なインテリジェンスを収集・分析し、伝達する。
- ②政府のインテリジェンス政策及び大統領が指示する特別活動を実施する。
- ③進化する脅威に先駆するため、リスクの排除が不可能であることを認識し、そのリスクを上手く活用して、コミュニティの能力を変革する。
- ④インテリジェンス・システムや政策決定プロセス等の一貫性を保持するため、効果的なカウンターインテリジェンス措置を実施する。
- ⑤市民の自由及びすべての米国民のプライバシーを尊重し、法の下で義務を果たす。

(参考) 9.11テロを踏まえ米国で初めて策定された戦略文書

(3) 戦略

任務目標 Mission objectives

－ 国家安全保障上の脅威を予測し、見抜き、先手を打つ取組や、安全保障政策決定者、国防関係者及び法執行者等に対する支援に関連する目標

- ① 作戦能力の解体を通じた国内外テロリストの殲滅、自由と民主主義の成長促進を通じた（テロの）イニシアティブの奪取
- ② 大量破壊兵器拡散の予防及び対抗
- ③ 民主主義の成長の促進、平和的民主主義国家の維持
- ④ 最も困難な目標に浸透し、またそれを分析するための、革新的方法の開発
- ⑤ 意思決定者に向けた、戦略上の懸念に関する展開予測及び機会・脆弱性の特定

組織目標 Enterprise objectives

－ 国家安全保障を脅かす国家や勢力に対して競争上の優位を維持するための能力に関連する目標

- ① 米国法及びプライバシー並びに市民的自由の保護と整合する、米国土への脅威に対抗するための統合的なインテリジェンス能力の構築
- ② 分析の専門知識、手法及びプラクティス強化、あらゆる専門知識の活用、伝統にとらわれない分析的視点の追求
- ③ 現在・将来の顧客及び分析上の優先順位に合致するような、情報収集能力の再編・統合・最適化
- ④ インテリジェンス・コミュニティにおける、革新的で成果主義的な労働力の募集・関与・統合
- ⑤ インテリジェンス・コミュニティの構成員及び顧客が、必要なときに適切なインテリジェンスにアクセスできる状態の確保
- ⑥ グローバルな安全保障課題に対応するための、対外的なインテリジェンス関係の新規構築及び強化
- ⑦ 相互連携、国家機密保護、積極的なカウンターインテリジェンス活動を可能とする、明快かつ統合的な保全上のプラクティス及びルールの創出
- ⑧ 脅威の出現に対してインテリジェンス上の優位性を維持拡大するための、画期的な科学・研究成果の活用
- ⑨ 過去の成功や失敗の教訓を踏まえた、新たな試練の予測及び準備
- ⑩ 無駄で低価値な事業の廃止、現在・将来の安全保障上の優先事項に対する資源の再分配